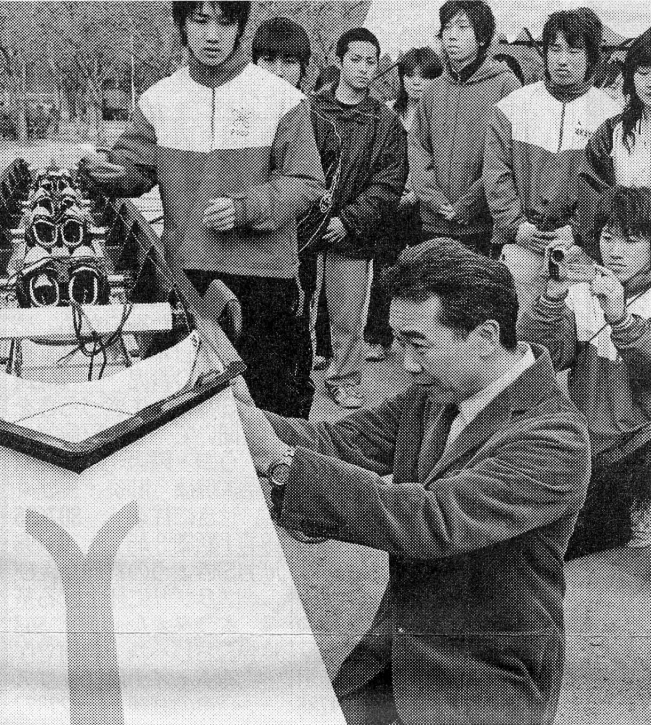


平成17年4月のJ.R.福知山線脱線事故で犠牲になった元近畿大3年、木下和哉さん(当時22)の父親、廣史さん(48)が、和哉さんの所属した近大ボート部に

ボートへの思い 引き継がれた「絆」

競技用ボートを寄贈し、練習場所の大阪市の大川で4日、進水式が行われた。新艇は「絆」と名付けられた。ボートは和哉さんが乗っていた「舵手つきフォア」



寄贈したボートに「絆」の字のステッカーを張る故・木下和哉さんの父、廣史さん
—大阪市都島区の共同艇庫前

福知山線事故 犠牲学生遺族が新艇寄贈

用のイタリア製。近大にはこのタイプがなく、練習や大会では他大学のを借りていた。

息子から生前、そのことを聞いていた廣史さんが、息子の足跡を残したいと昨年5月にイタリアのメーカーに発注した。費用は約200万円。

式には練習生活で寝食を共にした部員やOBら約60人が出席。廣史さんは「このボートは大切にしますのでなく、つぶすくらいの気持ちで練習してくれた方が和哉も喜ぶ」とあいさつ。

「絆」の文字のシールが艇体に張られ、部員らが乗り込むと、真新しい白いボ

トが水面を快調に進んだ。目標は5月に琵琶湖で開催される朝日レガッタだ。当時、和哉さんも出場予定だったが、事故に遭い、レース当日に告別式が行われた。和哉さんと同級だった前

主将、岩永大さん(22)は4年。このボートには特別な思いがある。OBになっても何らかの形でかわってきたい。現主将、田中慎一郎さん(19)は2年。これは「一人一倍練習熱心だった木下さんの思いを引き継いで、いい成績を残したい」と話した。

昨年4月に近大に入学しボート部に入った和哉さんの弟、喬介さん(19)は「舵手つきフォアのメンバーに入れるよう頑張りたい」と語った。